

## 特集 大学生活における地域での天文教育普及活動

### ～天文教育普及イベント「星空散歩」の活動報告～

伊藤 心（愛媛大学）

#### 1. はじめに

2019年11月24日に開催された近畿支部会で、「大学生活における地域での天文教育普及活動」というタイトルで口頭発表させていただきました。この発表では、私が大学生生活で行ってきた宇宙教育普及活動のうち、特に力を入れて活動した「星空散歩」というイベントについて報告しました。

「星空散歩」は、地域の方々に星空を見上げる機会を提供したり、宇宙のおもしろさを伝えたりすることを目的とする天文教育普及イベントです。2017年4月から約3年間にわたり11回開催しました。このイベントは、「公・民・学」が連携したまちづくり組織である、松山アーバンデザインセンター(以下、UDCM)の松山市中心市街地賑わい再生社会実験事業の一環として実施しました。私は、学生スタッフとして2017年1月からUDCMに関わっています。

#### 2. イベント名の由来と開催のきっかけ

「星空散歩」のイベント名は、当初、室内で季節の星空案内をした後、“散歩”して星の見えやすいところへ移動し、天体観望会を行う、という内容で企画したことに由来します。回数を重ねるごとに、様々な形でイベントを企画しましたが、イベント名は変えずに開催しました。また、イベント用にロゴマークをつくり、参加者の方々により親しみを持ってもらえるようにしました(図1)。



図1 「星空散歩」のロゴマーク

イベントを開催しようと思ったきっかけは、小中学生の頃に地元・姫路市の教育普及施設で受けた講座に大きな影響を受けたことです。小学校5・6年の2年間は、姫路市宿泊型児童館 星の子館で「キラキラクラブ」という、天文の話聞くだけでなく、ゲームや工作をしたり、望遠鏡で星を観察したりして、宇宙のことを楽しく学ぶ小中学生向けのクラブ活動に参加していました。また、小学校5年～中学校2年の4年間は、姫路科学館で様々な分野のサイエンスエキスパート講座を受講していました。その中でも、「天文の達人」という、天文の話聞いた後、受講生自身で望遠鏡を組み立てて実際に星を観察する講座を毎年受講していました。これらを複数年にわたり受講したことで、より宇宙に魅力を感じるようになっただけでなく、職員の方々とコミュニケーションをとる機会にも恵まれました。その中で、宇宙のおもしろさを伝えることの魅力に気づき、私自身もそのようなことをしたいと思うようになりました。大学生になり、イベントができる環境に恵まれたことで、企画を立ち上げました。

### 3. イベント内容

イベントの内容は、季節に合わせた宇宙の話題等のお話や、望遠鏡を用いた天体観望会、天文台での観望会ツアー、宇宙をテーマにした工作・絵本の読み聞かせ、プラネタリウムカフェなど、多くの方々に楽しんでいただけるようなものを企画しました。

全 11 回の大まかな内容とイベント時の写真を以下に示します。

表 1 「星空散歩」の開催日と内容

年	月日	大まかな内容
2017年	4月22日	春の星空の話 →公園で天体観望会
	7月1日	七夕のお話 &ミニプラネタリウムづくり
	7月16日	バーチャル宇宙旅行体験& 星景写真講座
	8月5日	久万高原天体観測館ツアー
	11月24日	まちなかプラネタリウムカフェ
	12月2日	オリジナル星座づくり (もぶる工作教室とのコラボ)
2018年	7月31日	火星大接近に合わせた 天体観望会
	11月23日	道後温泉本館前での天体観望会
2019年	7月6日	道de学ぼうでの星空案内・ 天体観望会
	7月20日	お城下マルシェでの星空案内・ 天体観望会
	11月21日	まちなかプラネタリウムカフェ



図 3 宇宙旅行体験の様子  
(2017年7月16日)



図 4 久万高原天体観測館の望遠鏡で参加者が星を観察している様子(2017年8月5日)



図 2 星空の話をしている様子  
(2017年4月22日)



図 5 プラネタリウムを囲んで星空の思い出話をしている様子 (2017年11月24日)



図 6 大接近した火星を望遠鏡で観察している様子 (2017年4月22日)

#### 4. 得られたこと・感じたこと

「星空散歩」の企画から運営を通して得られたことは、イベントの企画運営広報などの仕方や宇宙・天文に関する知識、参加者との接し方等、数多くあります。しかしそれ以上に、今後も天文教育普及活動を続けていきたいという思いがより強くなっていき、職業として関わっていく道を強く意識するようになりました。

また、イベントを開催するたびにたくさんの方々との出会い、嬉しいことがたくさんありました。たまたまイベント会場の前を通りかかった親子連れに星の話を聞いてもらったことがあるのですが、その子どもが興味を持ってくれ、他のイベントにも来てくださったのは、とても嬉しかったですし、イベントを企画してよかったと思いました。博物館等の教育普及施設が充実していない地域の方々に、少しでも科学を身近に感じていただけるような活動を行うことは、多くの課題がありますが、興味を持っていただけることが多いので、できる限り続けていきたいです。

#### 5. 質疑応答に対する追加回答

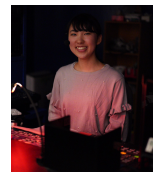
質疑応答で、「星空散歩」の今後についての質問をいただきました。当時はあまり考えられておらず、きちんとした回答ができなかつ

たので、この場をお借りして現時点での考えをお伝えします。

このイベントを開催するにあたり、多くの方々にご協力していただいたのですが、イベントの企画運営自体は私のみで行っていました。私は現在学部4年で、今年度で松山を離れるため、私が今後も定期的にイベントを開催することは難しいのが現状ですが、松山の方々に宇宙や天文のことを伝え始められたので、できる限り継続させていきたいと考えています。先日、ようやく後継者を見つけられたので、引き継いでいってほしいと思いますが、今までのイベントのスタイルや私の思いを押しつけるつもりはないので、後輩たちを見守っていかれたらと思っています。どのくらいの頻度で開催できるかは未定ですが、少しでも長く続けてくれることを願っています。

#### 6. 謝辞

イベントの運営には、地域の方々や、私が所属している愛媛大学天文学研究会の部員など、多くの方に協力していただきました。特に、イベントの立ち上げに携わってくださったUDCMの社会人スタッフの方々には、イベント運営に慣れていない私を様々な方面からサポートしてくださりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



伊藤 心